



谷津山保全活用方針 (案)

2026年1月

自然と歴史にふれる まちなかの森 谷津山
URBAN FOREST YATSUYAMA

目次

I はじめに	-----
1 方針策定の背景と目的	1
2 方針の対象期間	1
3 対象区域	2
4 方針の位置づけ	3
II 谷津山の現況と課題	-----
1 土地利用の移り変わり	4
2 竹林の拡大と景観の悪化	5
3 土地所有の状況	6
4 歴史文化	7
5 グリーンインフラとしての価値	7
III 保全活用の将来ビジョン	-----
1 保全と活用の考え方	8
2 目指す将来像	9
3 基本方針	10
4 重点的に取り組む区域	11
IV 保全活用の具体的な取組	-----
1 谷津山の自然や歴史を守り育てる 〈基本方針①〉	12
2 みはらしスポットと登り口の魅力向上 〈基本方針②〉	13
3 谷津山を歩いて楽しむ道づくり 〈基本方針③〉	14
参考	
方針策定の経緯及び策定体制	15

I はじめに

1 背景と目的

[谷津山保全活用方針が目指すもの]

保全活用に関わる人々の
“共通の思い”を整理したもの

あらたに保全活用に
関わってもらうよう促すもの

谷津山保全活用方針

保全

活用

この方針にもとづいた取組が進むことで・・・

● 谷津山の魅力に
共感する人が増える



● 協働の取組が進み
さらに魅力が高まる

谷津山の環境が保全され、魅力ある森として
これからの世代に引き継がれていく

- 谷津山は豊かな自然環境を有するとともに、市街地や鉄道駅にも近く、市民の皆さんのが気軽に訪れ楽しむことができる身近な里山です。
- これまで、市民団体の皆さんによる長年の里山保全活動により、豊かな自然環境が守られてきました。
- 近年では、東静岡駅周辺でのまちづくりの進展や市民による「谷津山ハイキング」の開催など、谷津山の魅力を活かした取組が広がっています。
- この良好な環境を保全し、魅力ある森として次の世代へ引き継いでいくためには、市民や企業、行政などの様々な主体の協力と連携が重要です。
- 谷津山保全活用方針（案）は、谷津山の将来像と今後の取組の方向性について関係者間の共通認識をまとめるとともに、谷津山の現状や潜在的な魅力を広く発信することで、谷津山をより身近に感じ、多くの人が保全や活用に関わっていただくきっかけとなるものとして作成しました。

2 方針の対象期間

- 「静岡市みどりの基本計画」や「東静岡地区まちづくり基本構想」などの関連計画との整合を図り、短中長期での目標を掲げながら進めます。

2025年

2030年

2045年以降

重点的に取り組む区域で

- 保全活用方針の作成
- 利用環境の整備
- 共創による取組の実践
- 機運の醸成

重点区域での
取組を展開

- 仕組みや体制構築による持続的な取組の推進

<関連計画>

○東静岡まちづくり基本構想（2025年8月公表）

- ・短中期取組 5年
(里山公園の保全・活用の取組“実施”)
- ・長期取組 2030以降
(里山公園の保全・活用の取組“拡大”)

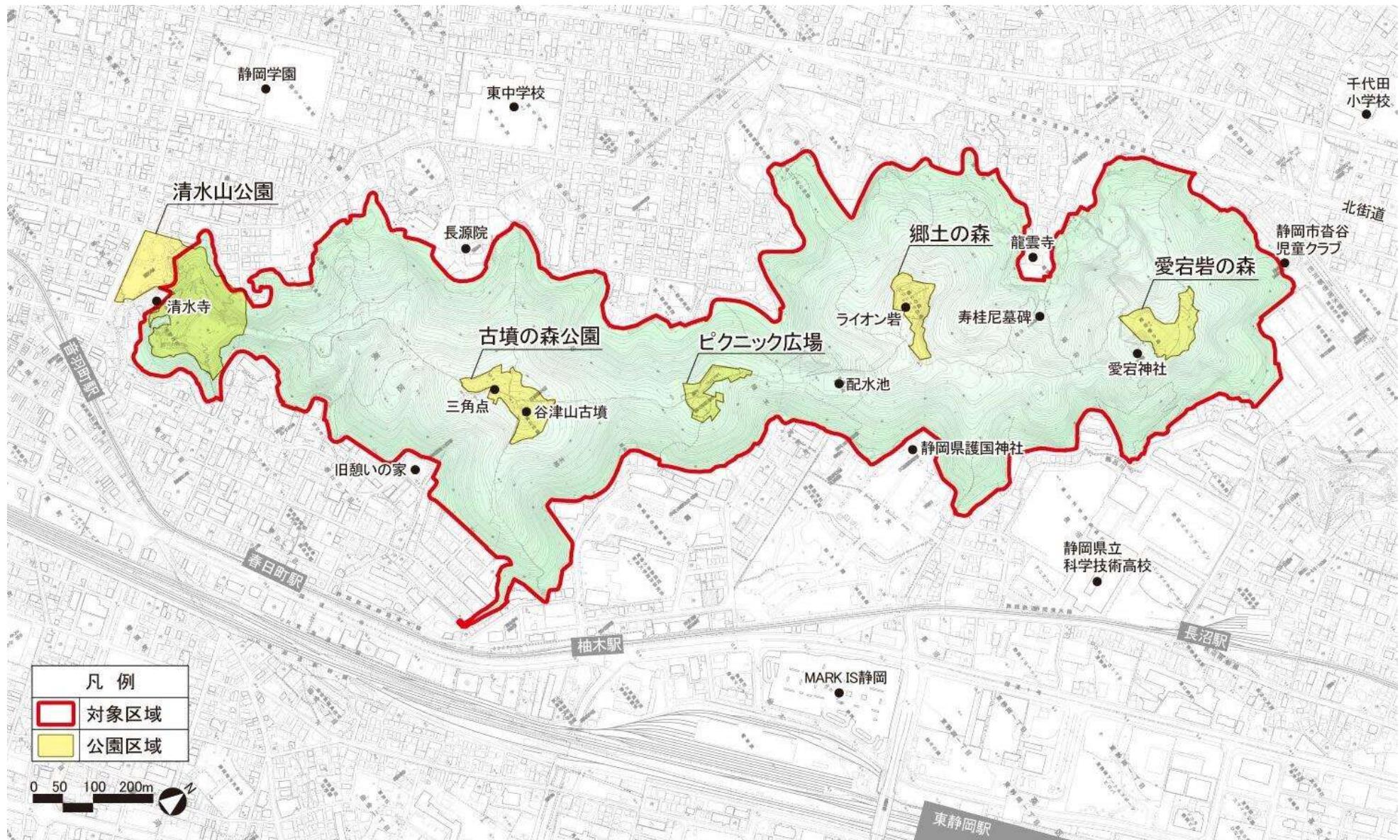
○静岡市みどりの基本計画（2025年3月改定）

- ・計画期間20年間
(市街地周辺の自然環境の里山としての保全・利活用の推進)



3 対象区域

- この方針で検討対象とする範囲は、谷津山自然公園や清水山公園を含む丘陵地部分で、以下の赤線の範囲とします。（面積約70ha）

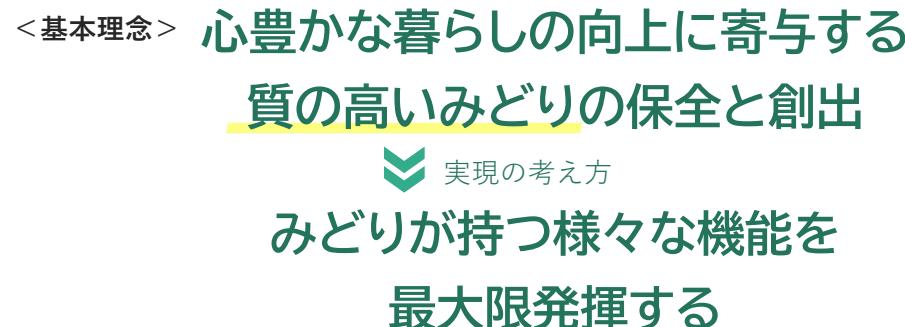


I はじめに

4 方針の位置づけ

●静岡市みどりの基本計画における基本理念

- 静岡市みどりの基本計画では、谷津山を含む「みどり」のあり方を以下のように位置付けています。



●谷津山に関する新たな視点

- 静岡市みどりの基本計画では、みどりに関する新たな視点として、良好な眺望やこれまで保たれてきた自然環境を市民が身近に楽しめる「里山公園」として保全活用していくことが位置付けられています。

- 谷津山に隣接する東静岡地区まちづくり基本構想※では、まちづくりの方針に「豊かな緑を身近に感じ、美しい景観に浸ることができる環境づくり」が掲られており、主要プロジェクトとして谷津山での取組が位置付けられています。

【東静岡駅まちづくり基本構想】

4. まちづくりの5つの方針

⑤ 豊かな緑を身近に感じ、美しい景観に浸ることができる環境づくり

- 健康で快適な生活・気候変動対策・生物多様性の確保等に向けた、緑地保全や緑化推進
- 市民が身近に自然と親しむ里山公園として、谷津山などの自然環境の保全や利活用の推進
- 公共建築物や民間施設での敷地内緑化などによる、良質な都市緑地の創出
- 環境に配慮した都市開発事業の促進（ZEB*、再生可能エネルギーの導入等）
- 富士山や谷津山の眺望等の地域の特性を活かした、美しく風格ある景観の形成



II 谷津山の現況と課題

1 土地利用の移り変わり

- ・ 谷津山周辺の土地はもともとは海でしたが、長い年月をかけて安倍川から運ばれた土砂で埋まり現在の平野が形づくられました。
- ・ 中心市街地や鉄道駅に近接していることから、谷津山の周りに市街地が広がり、市民の暮らしに身近な存在となっています。
- ・ 谷津山の地形はお茶やみかんの栽培に利用されてきましたが、次第に農業の手が入らない土地も増え、森林の荒廃や竹林の拡大が懸念されています。



▲谷津山周辺は安倍川の扇状地として運ばれた土砂で埋まり、庵原山地から伸びた尾根の高い部分が現在の山として残ったとされている



▲ほとんどが茶畠であり、一部愛宕神社周辺に広葉樹林が見える。谷津山周辺は田に囲まれている



▲茶畠のほかに果樹の利用もみられる。周辺の田んぼだった土地に市街地が形成され、身近な存在となる



▲昔はお茶やみかんなどを主体とした農用地であった



▲農業が衰退し、手入れされなくなることで、次第に竹林が拡大し、防災面で懸念される状態に



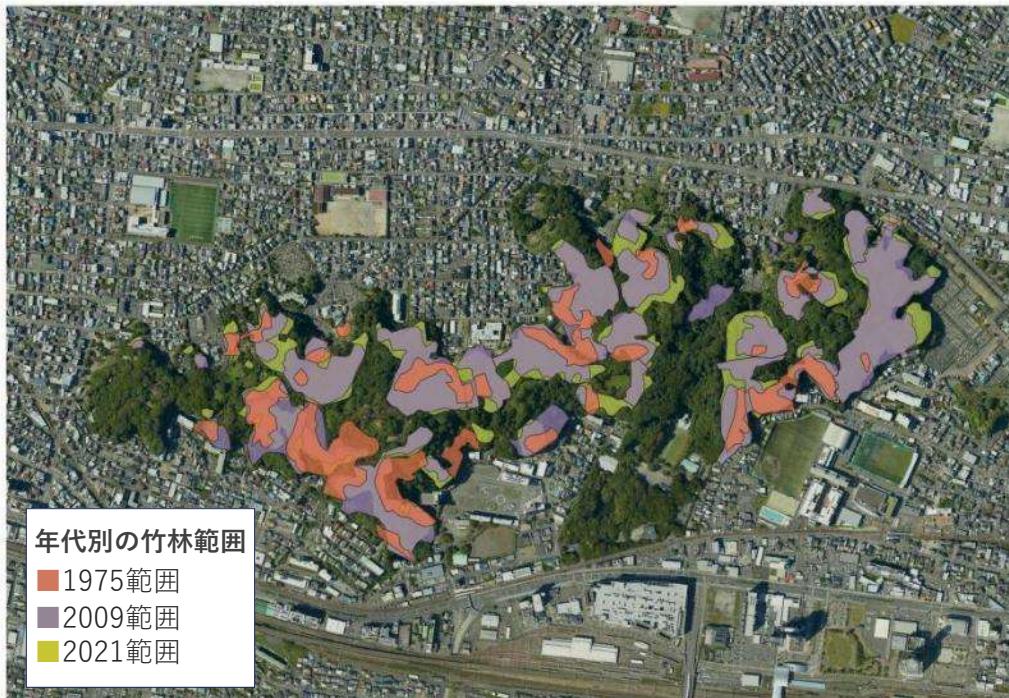
▲約20年前から市民ボランティアの活動により、竹林を伐採し、本来の自然や散策を楽しめる明るい林内に環境改善している箇所も出てきている

II 谷津山の現況と課題

2 竹林の拡大と景観の悪化

- 谷津山は、静岡平野の中心に隆起した山であるため、尾根沿いから各所を眺望することができます。
- 周辺市街地からも谷津山を望むことができ、周辺にある公園や神社等の背景を構成する重要な要素となっています。
- 頂上部の公園の整備当時は、周囲の市街地や稜線が見渡すことができ、開放的な空間が広がっていましたが、現在は、竹林や樹林が成長・繁茂し、眺望の妨げとなっている箇所もあります。

50年間での竹林面積の拡大
1975年 計画対象区域（約70ha）の
約40%が竹林化
2021年 約10ha ➞ 約30ha



II 谷津山の現況と課題

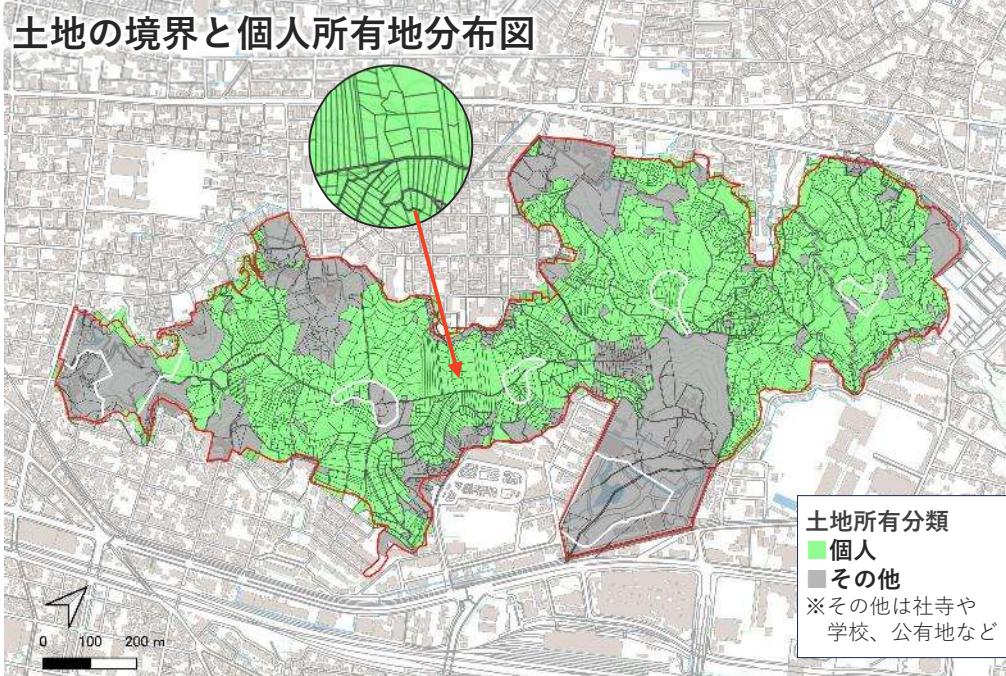
3 土地所有の状況

- 谷津山はその大部分が民地（個人）で、相続等により土地が細かく分かれ、計画区域全体では約3000筆の土地があります。
- 土地の境界は明確でなく、地権者による現状把握が難しいことから、適切な管理が行き届きにくい状況となっています。
- 地権者が自身の土地の現状を把握できる機会を設け、今後の土地処遇や管理継続を判断できる情報を整える必要があります。

**土地筆数
約3000筆**

**民地（個人）の土地筆数
約2300筆**

※「個人」には共有名義での所有も含む



地権者へのアンケート結果（頂上公園周辺地権者のみ）

- 重点的な区域の土地所有者（157人）に対して、所有土地の現状や今後にに関する意向を把握するためにアンケート調査を実施しました。

■アンケート調査実施期間

令和7年9月4日～令和7年9月29日

■アンケートの回収数・送付数

131件・157件（回収率83%）

■調査の対象

頂上部の公園周辺の土地所有者

※谷津山全域の地権者ではありません

■調査の方法

アンケート用紙の郵送回収

(WEB回答可)

■アンケート設問

- 所有土地の現在の用途
- 現在の維持管理状況
- 所有土地の今後の意向
- 所有土地を活用してもよい取組
- 所有土地で困っていること
- 将来の谷津山の望ましい姿
- 今度の情報提供のあり方
- 自由記述

①所有土地の現在の用途（複数選択可）

0 20 40 60 80

1. 土地の場所や現状が分からない	69
2. 樹林や竹林	48
3. 果樹・野菜・タケノコなどの農地	36
4. 公園（行政に土地を貸している）	36
5. 特に使用していない	42
6. その他	2

有効回答: 131

②現在の維持管理状況（一つ選択）



③所有土地の今後の意向（一つ選択）

- 引き続き土地を所有したい
- 土地を手放すこと検討したい
- 所有していたいが保全活用のために土地を貸してもよい
- 特に考えてない/わからない
- その他

有効回答: 125

⑤所有土地で困っていること（複数選択可）

0 20 40 60 80



II 谷津山の現況と課題

4 歴史文化

- 谷津山の最高地点（標高108m）には、4世紀（古墳時代前期）の築造とされる谷津山1号墳があります。
- 県指定文化財、市指定文化財等、登録文化財など貴重な文化財が残っており、麓には今川家、徳川家所縁の寺社仏閣も点在しています。
- 東端には、かつて愛宕山城と呼ばれる山城があり、曲輪・土塁・空堀・虎口などの遺構が残されています。



▲谷津山1号墳（1988年撮影）



▲県指定文化財 清水寺観音堂

5 グリーンインフラとしての価値

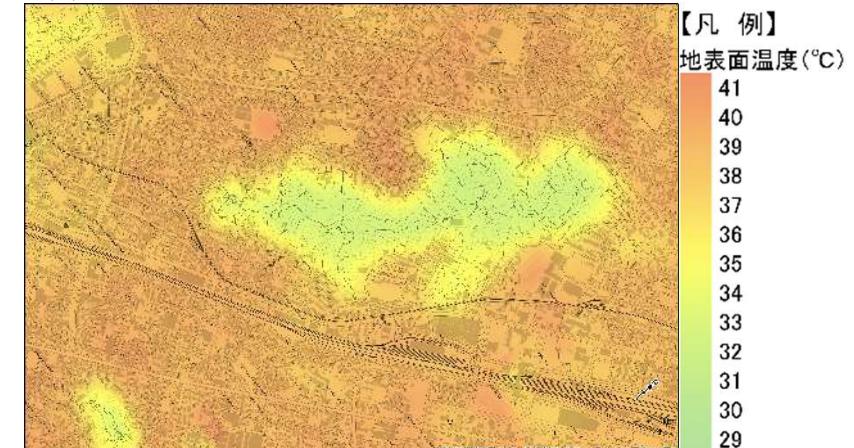
- 「グリーンインフラ」とは、自然が持つ多様な機能を活かして社会の課題を解決し、人と自然が共生できるまちづくりを進める考え方です。
- これまでに挙げた現状や魅力だけでなく、クールスポットの創出や身近な生物の住処、二酸化炭素の吸収・固定など、谷津山はグリーンインフラとしての価値がある自然環境を有しています。



樹木に覆われた谷津山内は周囲に比べて熱中症のリスクを判断する指数が低く、地表面も低いことから都市のクールスポットとなっています。

◀図1：熱中症のリスクを判断する指数（暑さ指数：WBGT）の測定結果

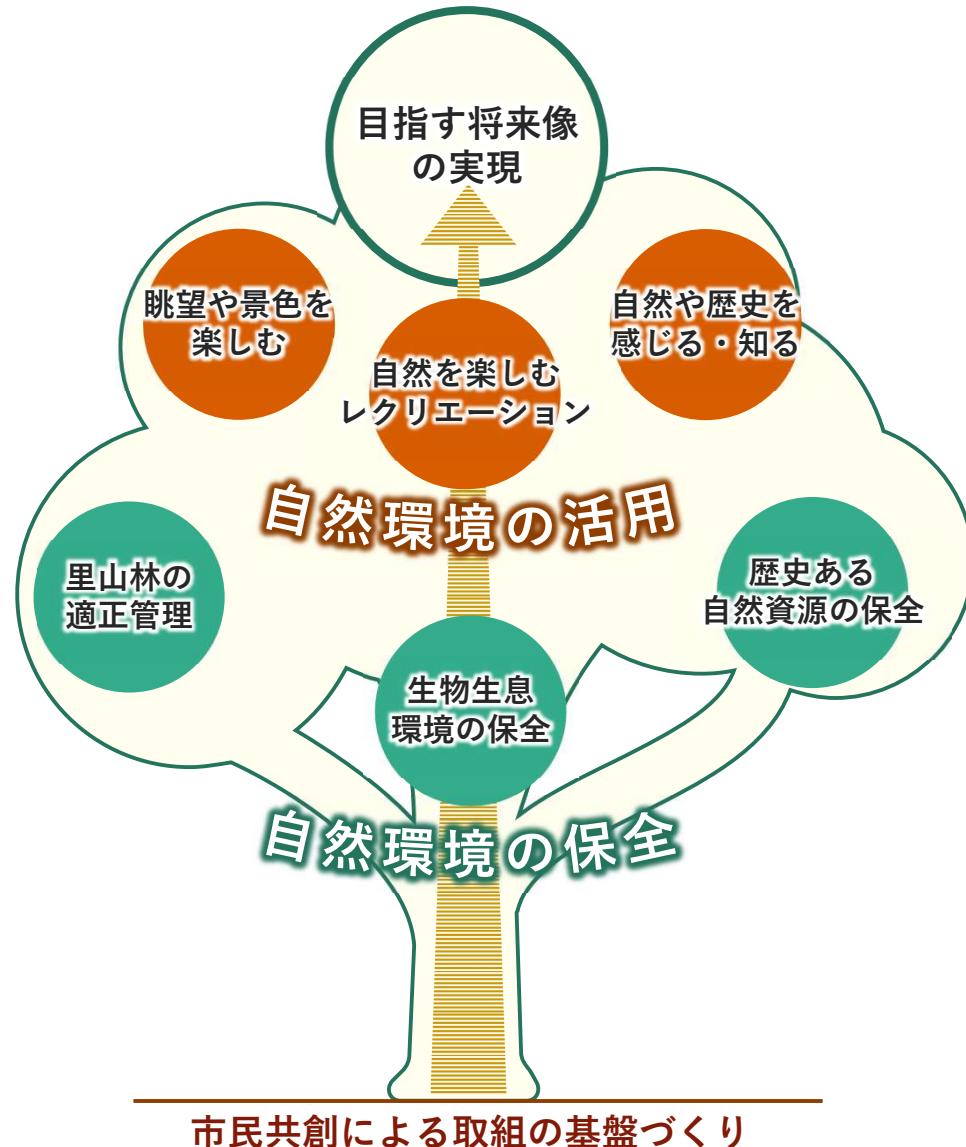
▼図2：地表面温度の算出結果



※Landsat画像（2025年9月9日）を用いた地表面温度の分析結果

1 保全と活用の考え方

- 自然環境を良好に保全するとともに、市民が身近に親しめる緑地として活用することで、谷津山の魅力を高めます。
- 持続的に保全・活用が図られるよう、市民・事業者・行政等の共創の基盤をつくりながら取り組みます。



Point 保全の考え方

- ①里山林の健全な管理と放任竹林対策の推進
- ②身近な動植物の生息環境の保全
- ③歴史資源と一体となった自然環境の保全



Point 活用の考え方

- ①地形を活かした眺望の確保
- ②自然に親しみ散策や滞在を楽しむ環境づくり
- ③自然や歴史を体験・学ぶ場としての活用



Ⅲ 保全活用の将来ビジョン

2 目指す将来像

- ・ 谷津山の現況や課題、団体ヒアリング、地権者意向調査等を踏まえ、「目指す将来像」を次のように設定します。

自然と歴史にふれる まちなかの森 谷津山 URBAN FOREST YATSUYAMA



谷津山は、市街地や鉄道駅からも近いまちなかの森で、気軽に低山登山を楽しむことができます。

また、尾根沿いの散策路からは、市街地だけでなく、富士山や南アルプス、駿河湾彼方の伊豆半島までバラエティに富んだ眺望を楽しむことができます。

さらに、谷津山古墳や愛宕砦、寿桂尼の墓所など、貴重な歴史資源が残るエリアでもあります。

これらの良好な環境を維持し、貴重なみどりの地域共有資産（グリーンインフラ）として、保全活用を官民共創により取り組む「里山公園」化を進めていきます。

3 基本方針

- ・ 目指す将来像の実現のために、3つの「基本方針」を設定します。

基本方針1 谷津山の自然や歴史を守り育てる

- 市民や地権者、企業等の協力を得ながら、放任竹林対策や森の再生などに取り組み、谷津山の自然環境と歴史資源を持続的に保全していきます。
- 自然や歴史を活かした体験や学びなどにより谷津山の魅力を官民共創で育みます。



基本方針2 みはらしスポットと登り口の魅力向上

- 頂上部の各公園を「みはらしスポット」とし、立地や地形を活かした眺望や気軽に自然に親しめる場として活用していきます。
- より谷津山に訪れやすくなるよう主な登り口の案内やアクセス環境を充実させます。



基本方針3 安心して歩いて楽しめる道づくり

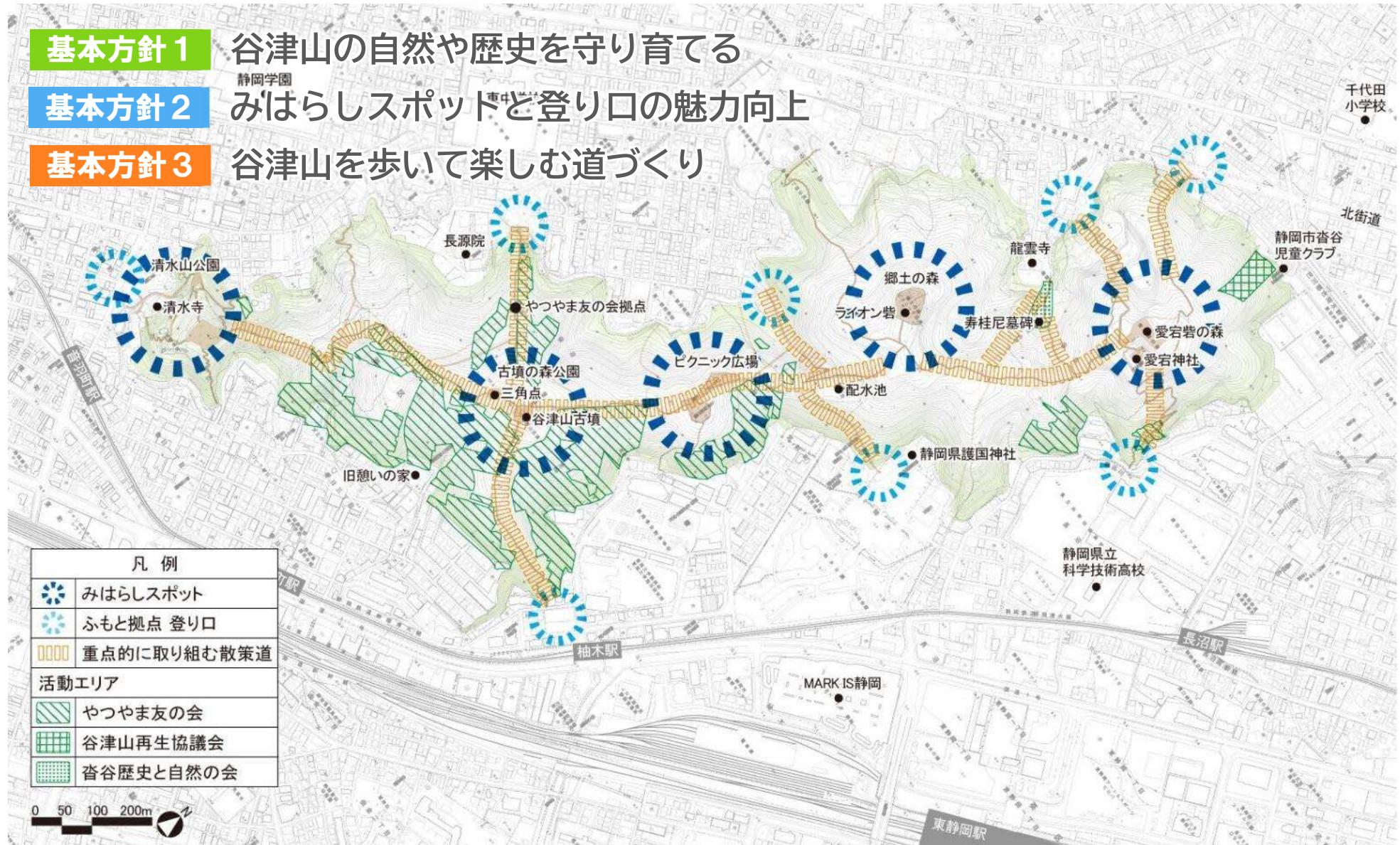
- 地形や眺望の変化を活かして、歩くたびに楽しさを感じる散策環境を整えます。
- 迷うことなく安全に歩けるように、分かりやすく歩きやすい散策道を整備します。



III 保全活用の将来ビジョン

4 重点的に取り組む区域

- 将来像を実現するために、既存公園や散策道周辺、市民団体の活動地などを「重点的に取り組む区域」として設定します。この区域を中心に、基本方針に沿って具体的な取組を市民共創で実施していきます。



1 谷津山の自然や歴史を守り育てる

(1) 多様な主体が関わる取組や体制づくり

- 保全活動の新たな担い手を確保するとともに、学校や企業などが参加できる取組や体制を整えていきます。

(2) 学びや体験による保全活用の意識醸成

- 各団体の活動や市事業を通じて、谷津山の自然環境の現状や課題を体験・学習できる機会を設け、保全活用に対する理解を深めていきます。

(3) 保全活用に関する地権者からの協力確保

- 地権者への情報提供を行い、保全活用への協力や市民団体の活動への理解を促すことで、取組が展開可能な土地を拡げていきます。

保全活用に関する静岡市の取組



放任竹林の初期整備を担う
皆伐事業 実施前



皆伐事業実施後
伐採後は植樹等で里山再生を目指す



竹林整備の体験イベント
「竹林整備隊」の実施



里山管理等の
普及啓発パンフレットの発行

「やつやま友の会」の取組



放任竹林から美しい景観に再生した
活動地のひとつ



竹林整備の大切さを市民に伝える
体験プログラムの実施

「谷津山再生協議会」の取組



潜在的な自然植生の復元を目指す



近隣高校との活動場所としての
環境整備

「沓谷歴史と自然の会」の取組



寿桂尼墓所に多くの人が訪れるように
環境整備



今川義元の母・寿桂尼の墓所という
歴史資源の活用

保全活用に向けた検討会議



各団体の活動状況や情報の共有



共同での現地確認

2 みはらしスポットと登り口の魅力向上

(1) 眺望の確保

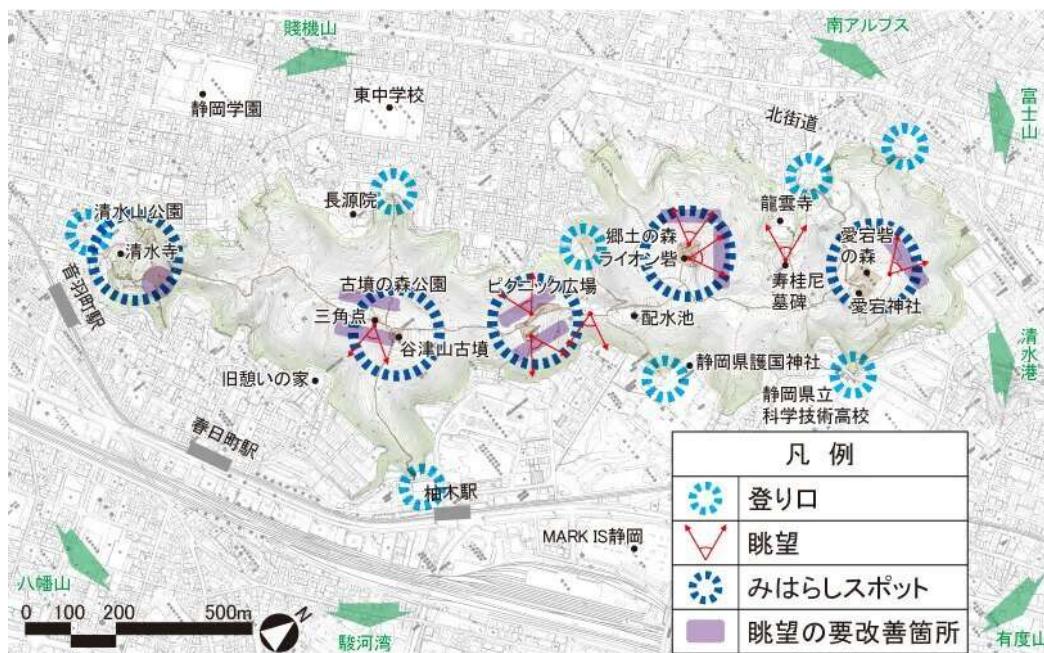
- 尾根部や都市公園となっている頂上部から、富士山、賤機山、八幡山など周辺の景観資源が見えるように支障となる竹木を整えます。

(2) 自然を感じ、親しむことができる環境づくり

- ゆったりと過ごしながら眺望や散策を楽しめるようトイレや休憩施設等を設置を検討します。

(3) 分かりやすくアクセスしやすい登り口

- 散策ルートの案内看板等を設置して入り口を分かりやすくするとともに、遠方から気軽に谷津山を訪れることができるよう駐車場等を確保します。



ライオン砦:竹林が広がり眺望不可



本来見える景色



ピクニック広場:木が成長して眺望不可



有度山や東静岡の街並み



春の散策(古墳の森)



頂上等でのイベント(谷津山ハイキング)



水が無い環境でも利用できるトイレ
(ダイラボウ山頂)



入り口でのルート看板(清水山公園)

3 谷津山を歩いて楽しむ道づくり

(1) 歩いて楽しい沿道景観の創出

- 地形や植生に応じて、視界の開ける場所や緑が覆い茂る場所など、多様な自然環境の姿を歩きながら楽しめるよう沿道景観を創出します。

(2) 安全で歩きやすい道の整備

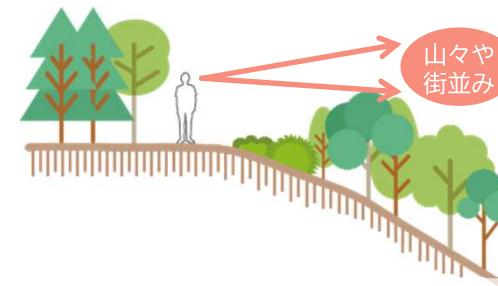
- 道幅がせまく、急傾斜地である場所では、利用者の安全を確保できるよう散策路の幅員確保や転落防止対策に取り組みます。

(3) 散策ルートとサインの充実

- 谷津山の魅力や自然環境を解説する案内サインや、利用者が安心して散策できるようルート案内板を充実させます。



森林浴が楽しむことができる緑の空間



視界を塞がないよう樹木の高さを調整



昔から使われていた散策道では、幅が狭く危険な箇所が存在する



公園整備当時の散策道



谷津山ハイキングコースマップ
(出典:しづおか焼津信用金庫ホームページ)



各所の魅力を伝える看板
(やつやま友の会製作)

これまで谷津山の保全活用に関わる市民団体との検討、頂上公園や散策道周辺の地権者意向調査を通じて方針（案）を検討してきました。

会議や調査	主な検討内容
R7. 6月 第1回検討会議	<ul style="list-style-type: none">・ 方針検討の進め方の共有・ 現況調査項目の検討
R7. 6月～現況調査	<ul style="list-style-type: none">・ 谷津山の散策道や眺望などの現況調査を実施
R7. 7月 第2回検討会議	<ul style="list-style-type: none">・ 現地調査結果の共有・ 地権者意向調査の検討
R7. 8月 第3回検討会議	<ul style="list-style-type: none">・ 重点的に取り組む区域の検討・ 地権者意向調査の検討
R7. 9月 地権者意向調査	<ul style="list-style-type: none">・ 頂上公園や散策道周辺の地権者に対してアンケート調査を実施
R7.10月 第4回検討会議	<ul style="list-style-type: none">・ 現状の整理と将来像の検討・ 地権者意向調査結果の確認
R7.12月 第5回検討会議	<ul style="list-style-type: none">・ 方針案の確認・ 周知方法の確認

<検討会議の参加メンバー>

- ・ 谷津山ハイキング実行委員会
- ・ 谷津山再生協議会
- ・ やつやま友の会
- ・ 脇谷歴史と自然の会
- ・ 静岡市



保全活用に関わる市民団体や地権者との
情報共有のための検討会議



谷津山保全活用方針（案）

方針（案）に対する意見を募集しています

右のQRコードを読み取り、
アンケートフォームよりご回答ください

